

教材教具および題材	学部	授業名（主たる教科領域）	執筆者
バスボムを作ってあそぼう	小低	グループ学習 たんぽぽ (図工)	宮田充規 奥林美紀

<ねらい>

- 手指先をしっかりと使って混ぜる。
- 混ぜる感触を楽しむ。
- お湯に入れるとバスボムから泡が出ることに気づき、楽しめる。

<内容>

- ①教師が材料の粉（重曹、クエン酸、片栗粉、食紅）をボールに入れる。
- ②混ぜる
- ③教師が水性の入浴剤を加える。
- ④こねるようにかき混ぜる。
- ⑤プリン型の型に教師と一緒に入れる。
- ⑥1週間くらい乾かす。
- ⑦お湯の入った洗面器にバスボムを入れて、泡が出ているのを楽しむ。

<良かった点・改善点（児童生徒の反応を含め）>

- 教師が3種類の材料の粉をお玉ですくって児童のボールに入れた。材料の粉はどれも白色で児童にとっては3つの粉が加わったことはわかりづらいと思われた。そこで入れるときは児童が自分でお玉を傾けたり、粉を手の甲に当たるようにしたりすることで、主体的な活動になるように工夫をした。
- 絵の具遊びなどのべとべとした感じが不得意な児童もいた。バスボムづくりは、さらさらとした感じなので、自分から触ることができた児童がいた。
- 水性の入浴剤を加えると、すぐに食紅の色が全体に広がる。色が変わったことに気づいてほしいので、教師が驚きの声を上げ、大げさにびっくりすることで児童に色の変化に気づけるようにした。教師の声につられて声を出す児童もいた。
- 給食のゼリーカップにできあがったバスボムを入れた。粉を教師に手のひらに乗せてもらって、教師と一緒にカップに入れたり、教師と一緒に指先で押して固めたりした。繰り返すうちに作業が分かってきて、教師に少しの介助してもらおうとできるようになった児童もいた。
- 適温のお湯が入っているボールに作ったバスボムを入れて遊んだ。泡がたくさん出てくる様子を見て楽しめた児童、手のひらや指をお湯に入れて泡がはじけているのを感じられた児童、水面ではじける泡をより感じたいために顔を水面近くまで近づけて感じていた児童。それぞれの児童がその子なりにバスボムを楽しめた。

